

# 四国こどもとおとなの医療センター



写真 1 ホスピタルアートを取り入れた外観

## 【施設の特徴】

当院は、2013年5月1日に旧善通寺病院と旧香川小児病院を統合し47科689床でスタートしました。

病院の名前の通り、胎児・新生児から老人まで医療を必要とするすべての人に安心・安全で高度な医療を提供することを目標に、1日24時間・年間365日を通してすべての人を受け入れています。

## 【ホスピタルアート】

当センターの外観を見てもお分かりの通り、治療・検査がメインの場で、実用性が重視され殺風景な空間が広がる病院にアートを取り入れる取り組みを行っています。海外では比較的発展しているホスピタルアートですが、日本ではまだまだ発展途上の段階にあります。このホスピタルアートを5年以上前に取り入れた院長の先見の明には脱帽です。

## 【診療放射線科】

中央検査部診療放射線科には18名の診療放射線技師（男性：13、女性：5）が勤務しています。検査フロアはB1F、1F、2Fと3階層に分かれ、B1Fは、放射線治療とRI、PET検査、1Fは外来検査（一般撮影、CT、MRI、透視、マンモグラフィ、骨塩定量）2Fは、入院・救急検査（一般撮影、ポータブル、CT、MRI、血管造影）を行っています。

また、放射線部内での勉強会を定期的に行い、その成果を各学会で発表（海外発表も含む）や座長を務めています。

## 【施設周辺】

総本山善通寺：四国八十八箇所霊場の七十五番、真言宗十八本山の一番札所。和歌山県の高野山、京都府の東寺と共に弘法大師三大霊場に数えられ、空海生誕の地とされています。（写真2）

江戸時代頃から、西国三十三箇所観音霊場、熊野詣、善光寺参りなどの巡礼が流行するようになり、そのうちの1つが四国八十八箇所です。他の巡礼地と異なり四国八十八箇所を巡ることを“遍路”と言い、八十八箇所を結ぶ道を“遍路道”と言います。阿波の国（徳島）に二十三か寺、土佐の国（高知）に十六か寺、伊予の国（愛媛）二十六か寺、讃岐の国（香川）に二十三か寺があり、通して巡ると1,100km～1,400kmになるそうです。



写真 2 善通寺金堂、五重塔

お時間が許せば、いろいろなことを見つめ直す悠久の旅に出かけてみてはいかがでしょうか？